

UGOKUのポイント
①

家族全員を補償する!



「UGOKUなら、例えば自分が加入すると、妻、子供、あるいは大学生で別居の未婚の子供など、家族全員を補償してくれます」と高橋さん。確かに自分以外の家族が自転車に乗る人も多いため、これは非常にうれしいポイントだ。さらに、「UGOKU」の補償は自身あるいは家族が自転車を運転しているときだけではなく、「例えば、子供が徒歩で通学中に自転車とぶつかったけがをした、妻がバスに乗っているときに転んでけがをしたなど、“乗り物(※)”に起因する事故も補償の対象です」

※“乗り物”とは、自動車(運転中を除く)、自転車、車椅子、ベビーカー、電車、エレベーター、エスカレーター等を言います。

UGOKUのポイント
③

日常生活の幅広い
リスクもカバーする

ケース1

カフェでテレワーク中、隣の人のPCにコーヒーをこぼし壊してしまった



ケース2

子供が駐車場で他人の車におもちゃで傷をつけてしまった

「自転車や交通事故に関係のないような、幅広い日常生活における賠償に対応しているのもポイントです。例えば上に挙げたケースで相手に損害を与えた場合の賠償も、UGOKUで補償可能です。この他にも、マンションの上の階から水漏れして家財が濡れたので弁護士に相談する、といったさまざまなケースまでカバーします。もちろん、これも家族全員が対象です。え、そんなことまで? と感じるほどの充実っぷりだ。」

移動の保険「UGOKU」をもっと知りたい!
損保ジャパン代理店から申し込みが可能

ここまで読んで「UGOKU」に興味湧いてきた人、加入を検討したい人は、取扱代理店に詳細を確認してみよう。「なお、加入手続きはスマホで簡単にできます」と高橋さん。

UGOKUのポイント
②

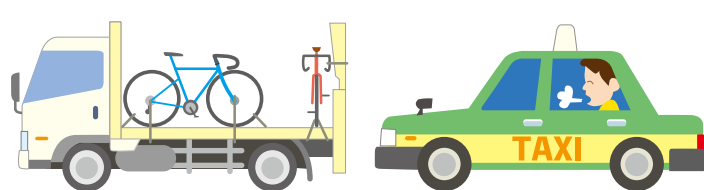
月額980円で
業界最高水準^{※1}の補償内容^{※2}

事故による相手への賠償無制限

自身のけがの補償最大3000万円

示談代行サービス + 弁護士費用補償

ロードアシスタンス + 宿泊移動費用も補償



「ワンプランで業界最高水準の補償内容なのも特徴です。特に、自分のけがを実費で補償できること、さまざまな事故やトラブルに対応できる“自転車等のロードアシスタンス特約”が付いているのが強みです。事故などの現場からタクシーを呼び、最寄り駅から帰宅するといった事故時の目的地までの移動費用も補償できますよ」と高橋さん。自分に合うプランはどれか分からないことが多いが、これなら迷わず一発で選べ、補償内容も充実なので安心だ。」

※1 自転車運転中の補償に関して。2021年9月現在損保ジャパン調べ。
※2 競技や競走、その練習をしている間の事故は補償の対象外となります。

- 「UGOKU」はドライバー保険に「移動保険に関する特約」を付帯した契約のペットネームです。
- このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については損保ジャパン公式ウェブサイトよりご確認ください。取扱代理店または損保ジャパンまでお問い合わせください。
- 引受保険会社：損害保険ジャパン株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 連絡先：www.sompo-japan.co.jp/contact/
承認番号SJ21-51304 (2022.2.25)

月額980円で家族全員をカバー & 充実の補償内容

いま注目の自転車保険

UGOKU

ウゴク

スポーツバイクユーザーにとって今や“必需品”となった自転車保険。しかし、いろいろあって何を選んだらいいのか? 悩める人におすすめの、注目商品を紹介!



ADVISER

損保ジャパン
リテール商品業務部
高橋 潤さん



サイクリストに多く選ばれ加入1万件突破!

Q1 自転車保険って何?

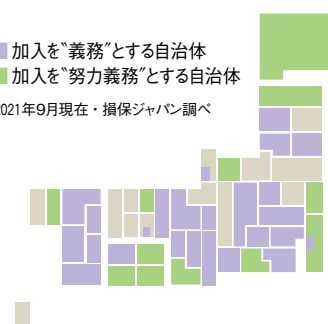
「一般的には“相手にけがをさせてしまったり、相手のモノを壊してしまったときの損害賠償に備える”のが自転車保険と言われています。さらに、ご自身のけがの補償や、自転車特有のリスクに備えたロードサービスなどの補償が付帯されているものもあります」



ロードバイクをはじめとしたスポーツバイクに乗るに当たって(もちろん他の自転車でも同じだが)、安全上必ず装備するべきものと言え、ヘルメット、前後ライト、ベル……そして、保険だ。重要なのは、もし自転車運転中に自分が事故を起こし、誰かにけがを負わせたり損害を与えてしまったりしたときに、賠償ができるようにすることです。そうしたケースを補償してくれる、自転車保険へ加入することが大切で、近年は多くの自治体が加入を義務付けています」

Q2 自転車保険には加入しないといけないの?

加入を“義務”とする自治体
加入を“努力義務”とする自治体
※2021年9月現在・損保ジャパン調べ



「車に乗るときと同じで、万一自転車運転中に自分が事故を起こして相手にけがや損害を負わせたとき、賠償できる必要があります。過去には相手方が意識不明になってしまい、1億円近い賠償額となった判例も出ています。普通ならとてもではありませんが対応できませんよね。また、左のマップのように条例として加入を義務付ける自治体も増加しており、加入は必須と考えましょう」

そう話すのは損保ジャパン・リテール商品業務部の高橋 潤さんだ。なるほど、しかし自転車向け保険と言ってもさまざまな種類があり、どこまで対応できるものを選んだらいいのか分からない人が多いだろう。「当社で昨年発売した、UGOKU(ウゴク)なら、月額980円で家族全員を補償できるうえ、サイクリストにとって安心の自転車ロードサービスなど補償内容が充実しておりおすすめです。既に加入件数も1万件を突破しました」